

今、社会的に注目されているアルツハイマー型認知症ですが、残念ながら根治療法はまだまだ確立されていません。アルツハイマー病の主な原因としてアミロイドβタンパクにより構成された老人斑や、リン酸化タウタンパクを主成分とする神経原線維変化が大腦に急増して、神経細胞が変性脱落することが考えられています。ですから、いったん発症して神経細胞が減少すると、認知機能の回復は困難となります。それでは根治療法がないから治療を諦める？ いえいえ、そうではありません

▶アルツハイマー型認知症の

根治療法はまだまだありませんが…

せん。アルツハイマー病の患者さんにはいろいろな思いがあります。子供や孫の結婚式に出たい、思い出を作れるうちに夫婦で旅行を楽しみたい、できるだけ長く家族と一緒に暮らしたい…。そうした願いに少しでも応えられるように、自分らしい生活を送れるよ



うなサポートとなる治療を行います。アルツハイマー病をかかえながらも充実した生活を送っていたためだけに、治療の三大柱があります。それは「認知症ケア」「リハビリテーション」「薬物療法」です。今回はまず認知症ケアについて紹介します。

在として捉えて、なじみの人間関係として触れ合える仲間、安心して過ごせる居心地の良い居住空間を用意することに、治療の三大柱があります。それは「認知症ケア」「リハビリテーション」「薬物療法」です。今回はまず認知症ケアについて紹介します。

ケアの原則は、まずもって認知症の原因疾患の理解が大切で、個々の病状に合ったケアが必要となります。そしてアルツハイマー病の方の不安を解消するように孤独にさせない見守り、ケアする側は決して感情的にならず、プライドを尊重することを心がけなければなりません。

今ケアの中心として考えられている理念として「パーソン・セントラード・ケア」があります。認知症患者ではなく1人の人間としてかけがえのない存在として捉えて、なじみの人間関係として触れ合える仲間、安心して過ごせる居心地の良い居住空間を用意することに、治療の三大柱があります。それは「認知症ケア」「リハビリテーション」「薬物療法」です。今回はまず認知症ケアについて紹介します。

私が常に実践しているケアは「バリデーション療法」です。この治療法は「傾聴する」「共感する」の二つの柱からなり、ケアのポイントは、優しい口調、真心を込めたアイコンタクト、言ったことを繰り返すリフレーミング、優しく身体に触れるタッチング、時には相手の訴えを極端な表現で支持し返してあげる等です。こうしたコミュニケーションは一般社会でも求められる重要な事柄ですので、皆さんの良好な人間関係を築くための一助としていただけたら幸いです。(亀田北病院院長)